

低周波音被害に於ける人体実験

第26回日本臨床環境医学会

2017年6月24日

特定非営利活動法人
低周波空気振動被害者の会

低周波音被害に於ける人体実験

低周波音被害は、主たる影響が空気振動影響を受けやすい中耳内耳の損傷にあり、曝露の結果として、鼓膜から蝸牛や前庭に過大な負荷がかかり、聞こえが劣化したり、ふら付いて真っ直ぐに歩けなくなる、空気振動の打撃に依って臓器が痛む被害だ。

被害は“聞こえ”ではなく、低域の空気振動環境の変化が原因だから、“閾値”の類は関係が無い。これまでの実験結果でも、関係性は確認できておらず、目的を決して達成できない人体実験である。

大学や独立行政法人産業技術総合研究所等の、①**低周波音曝露実験室で行われる人体実験**は、足の骨折を訴えている被害者を、事実か否か歩かせて判断するという拙劣なもので、新たな被害者を作ってしまう可能性があり、被害者の症状を悪化させる危険もあり、拷問である。

なかでも②**公害等調整委員会が実施する、所謂「音当て」**は、被害者を被害がアルと訴えている自宅空間に留め置いて拘束し、音源駆動を当てさせるが、音源側には調査することを事前告知する。すると音源側は機器装置の変更や減弱操作に走る結果、音源との関係がない苦情と結論され、予定通り虚言者のスタンプが押されてきた。

愛媛県伊方町は既に10年、和歌山県由良町でも5年を超えて、③**風力発電所近傍での被害**が放置されている。未だ公害苦情受付すら為されておらず、**高齢者の突然死**や急速な体調悪化後の死が確認されている。

これが低周波音曝露による人体実験の実際である。

アチエ大津波16万人以上が犠牲 2004年12月26日

2005年(平成17年)1月4日 火曜日 14版 厚月 日 楽丁 頁

時時刻刻

(1面参照)

スリランカのアンバラで3日、約400人が避難している図書館の片隅で子どもたちの診療が行われていた

山本壮一郎撮影

500万人 感染の危険



死者が1万人を超え、難所スリランカで最大規模の被害が出た東部のアンバラ。海岸から約800メートル離れた図書館を使った避難の

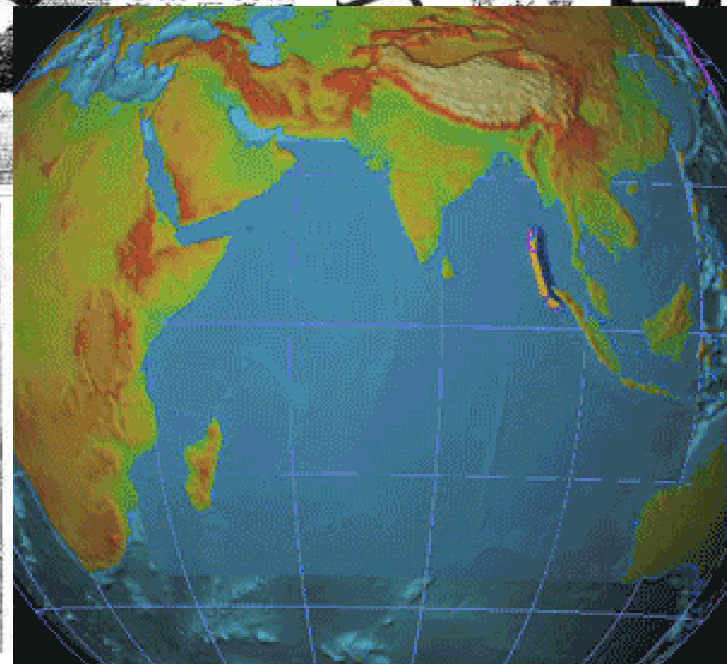
目立

スマトラ沖大地震と津波に。特に危険が指摘されるのは、約500万人が感染症の

コレラ・腸チ

【バンコクリ木村文】タイ南部のリゾート地カオラックで先月26日、観光用のゾウが、津波が来る直前に高台に向かって走り出し、背中に乗っていた観光客十数人が結果的に難を逃れたことが分かった。ロイター通信が伝えた。

ゾウ 津波察知?
客乗せ高台へ 避難



アチェ大津波16万人以上が犠牲 2004年12月26日

天変地異(津波が海岸を襲う)を察知した象・水牛

カオラックでダンさんが飼育するゾウ8頭が、地震が起きた午前8時頃鳴き声を上げた。

1時間余り後ゾウは再び興奮し、背中に観光客を乗せて近くの丘に向けて突進した。

近くのラノーン県沿岸では、津波の直前、草を食べていた100頭余りの水牛が、一斉に海の方を見た後、高台に走り始めた。

追いかけた村人はかすり傷ひとつなく助かった。

ゾウも水牛も津波による低周波音を感知したらしい後に興奮状態となっている。

**地震→津波→低周波音
→急性ストレス反応**

【バンコクリ木村文】タイ南部のリゾート地カオラックで先月26日、観光用のゾウが、津波が来る直前に高台に向かって走り出し、背中に乗っていた観光客十数人が結果的に難を逃れたことが分かった。ロイター通信が伝えた。

カオラックの海岸で8頭のゾウを使うダンさん(36)

ゾウ 津波察知?

客乗せ高台へ避難

によると、ゾウは地震が起きた午前8時ごろに鳴き声をあげた。1時間余り後、ゾウは再び興奮し、背中に観光客を乗せたまま近くの丘に向かって突進。追いかけるうち、津波が海岸を襲うのが見えた。ダンさんの指示で、ゾウは、観光客を一人、二人と鼻で抬い上げて背に乗せたという。浜辺には当時3800人の観光客らがいたが、ほとんどが波にのまれたという。

また、近くの北ラノーン県沿岸では、津波の直前、草を食べていた100頭余りの水牛が一斉に海の方を見て、高台に走り始めた。追いかけた村人たちは、「おかげでかすり傷ひとつなかった」と話しているという。

スマホ難聴、ヘッドホン難聴

2015.3.10 09:45

若者の「スマホ難聴」注意 大音量の音楽鑑賞が原因

世界保健機関（WHO）は2月下旬、聴力を守るためにスマートフォン（スマホ）などで音楽を鑑賞する場合は「1日1時間以内」に控えるべきだとする指針を発表した。難聴となる恐れが指摘されるためだ。難聴は初期には自覚症状がない上、失った聴力を回復するのは難しい。大音量の音楽が流れる場所に行く機会が多い人も注意が必要だ。（平沢裕子）

“老人性”のリスク

難聴は、耳の器官や聴覚神経の障害などが原因で聞こえにくくなる病気。騒がしい場所で聞き取りにくかったり、音は聞こえるのに内容が理解しにくかったりする。

大きな音に長時間さらされることで聞こえにくくなるのは、聴覚器官の内耳にある蝸牛（かぎゅう）の音を感じる細胞が障害を受け、死んでしまうためだ。死んだ細胞を再生させる治療法はなく、正常な聴力を維持するには予防するしかない。

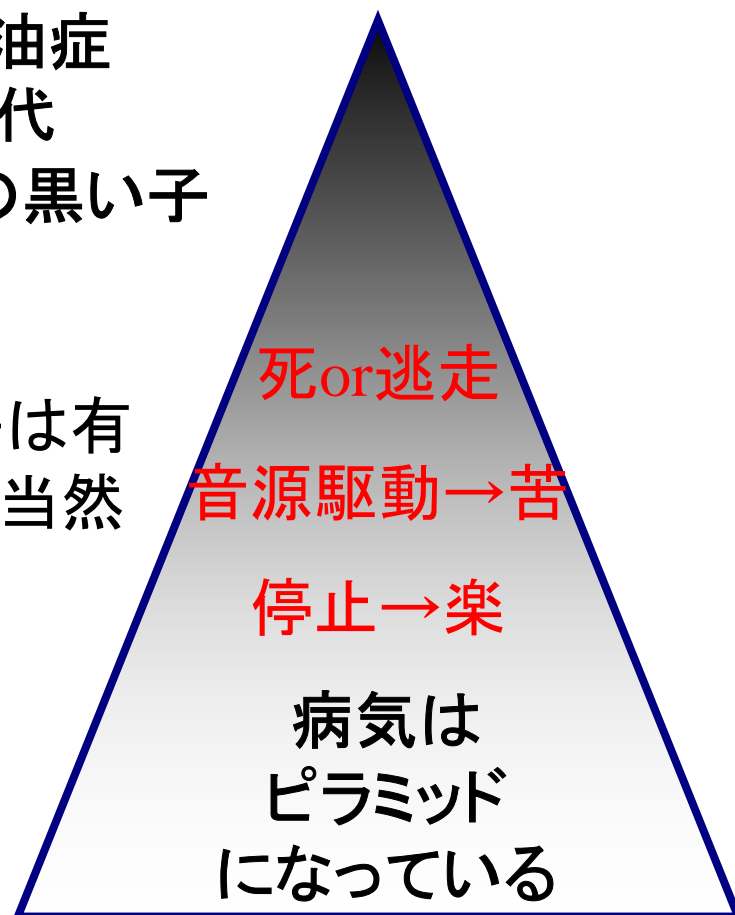
ロックコンサート会場から表へ出た時に、耳がジーンと鳴ったり、耳の奥に痛みを感じたりする。クラシックであろうと、ロックであろうと楽音にその理由はなく、音楽を運ぶ空気振動が痛みや難聴の原因であるように、低周波音被害と“聞こえ”は無関係

原田正純医師

ETV特集2013年5月25日

カネミ油症
第2世代
重症の黒い子

個体差は有
るのが当然



NHK・ETV特集「毒と命 ～カネミ油症 母と子の記録～」／事件発覚から45年を経た現在でも、子どもや孫への世代を超えた「毒の移行問題」は放置され続けている

食用油にダイオキシンが混入し、日本各地で1万4千人が被害者を訴えた「カネミ油症事件」。

事件発覚から44年を経た去年（※2012年）、初めて被害者救済法が成立し、国の被害者救済の責務が法的に明記された。

しかし、成立した救済法で一顧だにされなかった問題がある。

それは、子どもや孫への世代を超えた「毒」の移行の問題だ



汐見文隆医師の見解

医学の進歩と共に、精密な化学的測定や高価な精密機械による物理的検査が導入されたが、益々高度化する技術を使いこなすのは医師には無理であり、臨床検査技師に委任するしかない。しかし、理工学関係者の臨床検査技師は、あくまで臨床診断の補助者であって、診断は医師の役割である。正しい精密なデータを提供してくれるのが検査技師であっても、最後の診断は医師がやることになっており、それまで検査技師がやれば**医師法違反**だ。低周波音の測定はそれ程高度な技術ではないし、測定器も、普通の騒音計よりは高価だが、CT(コンピュータ断層装置)やMRI(磁気共鳴断層装置)ほど超高価の機械でもない。あくまで患者さんが生活している被害現場を主体にした測定が必要だから、病院の優れた臨床検査技師の手を借りることもできずに、原則的には医師の手の届くところに検査データが無い…。

「工学関係者に、早く対策させるべき」と記者会見され、
多数の計測器を自費購入され、被害者に提供された。

愛媛県伊方町



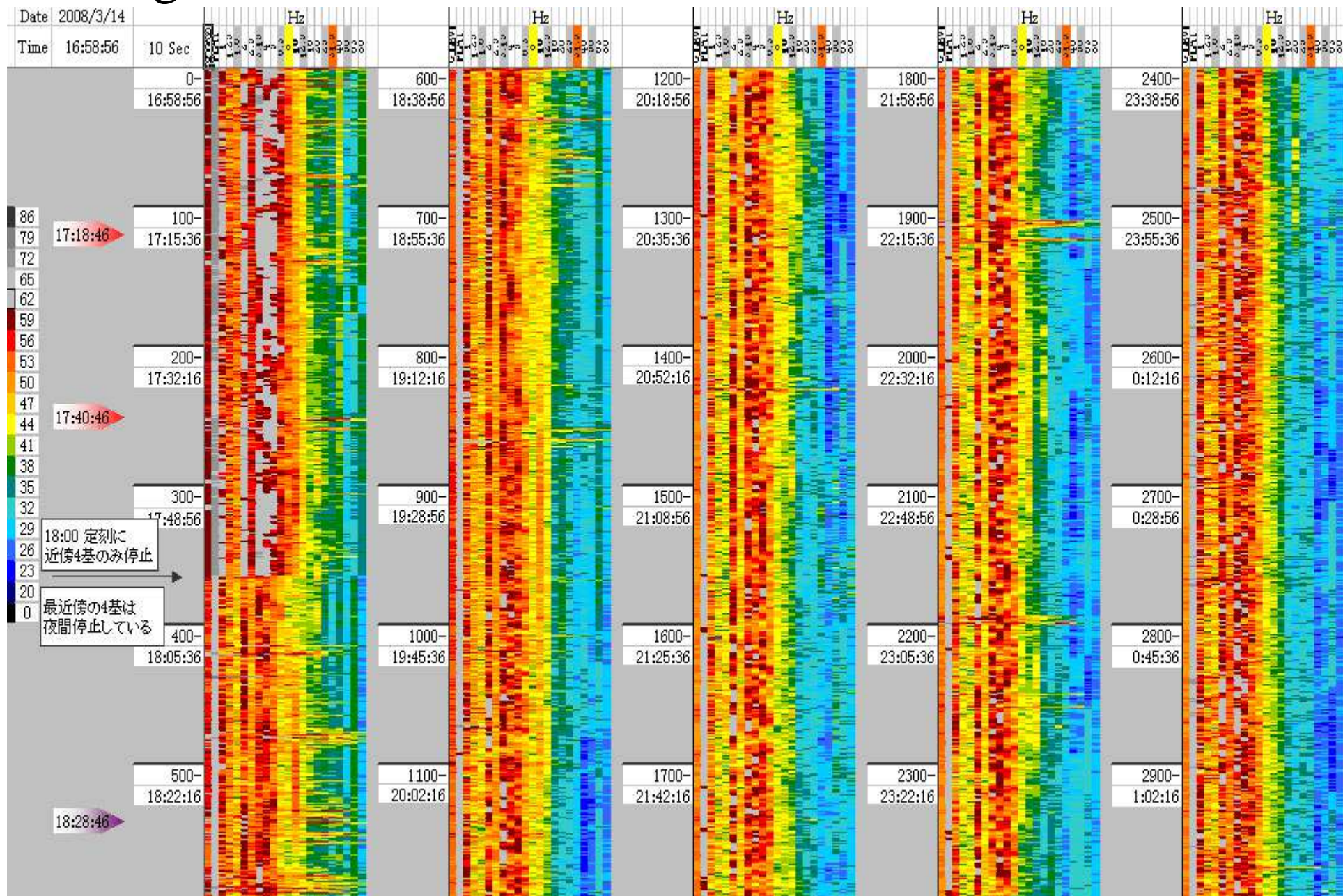
愛媛県伊方町三崎

20

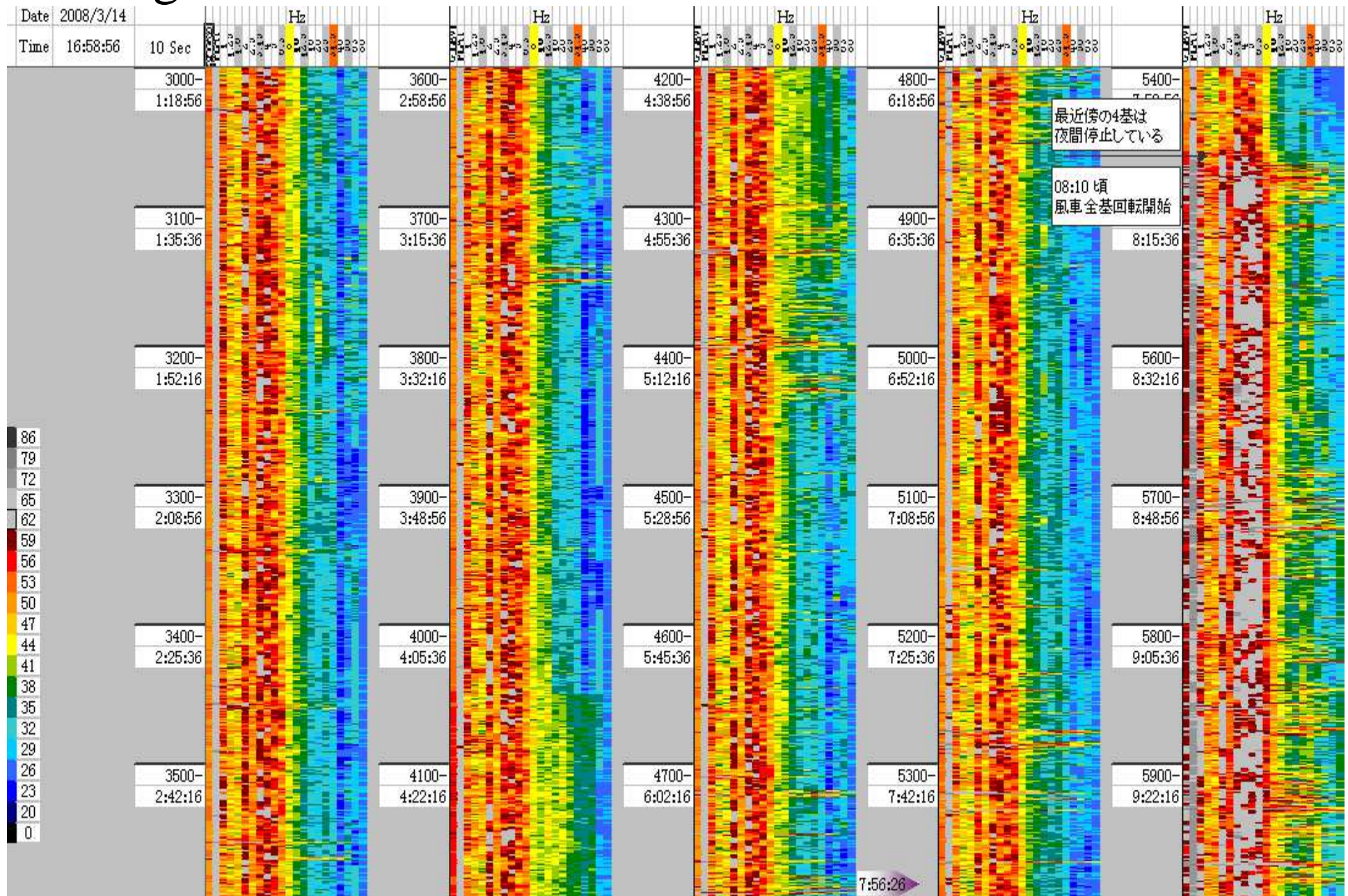


調査位置図

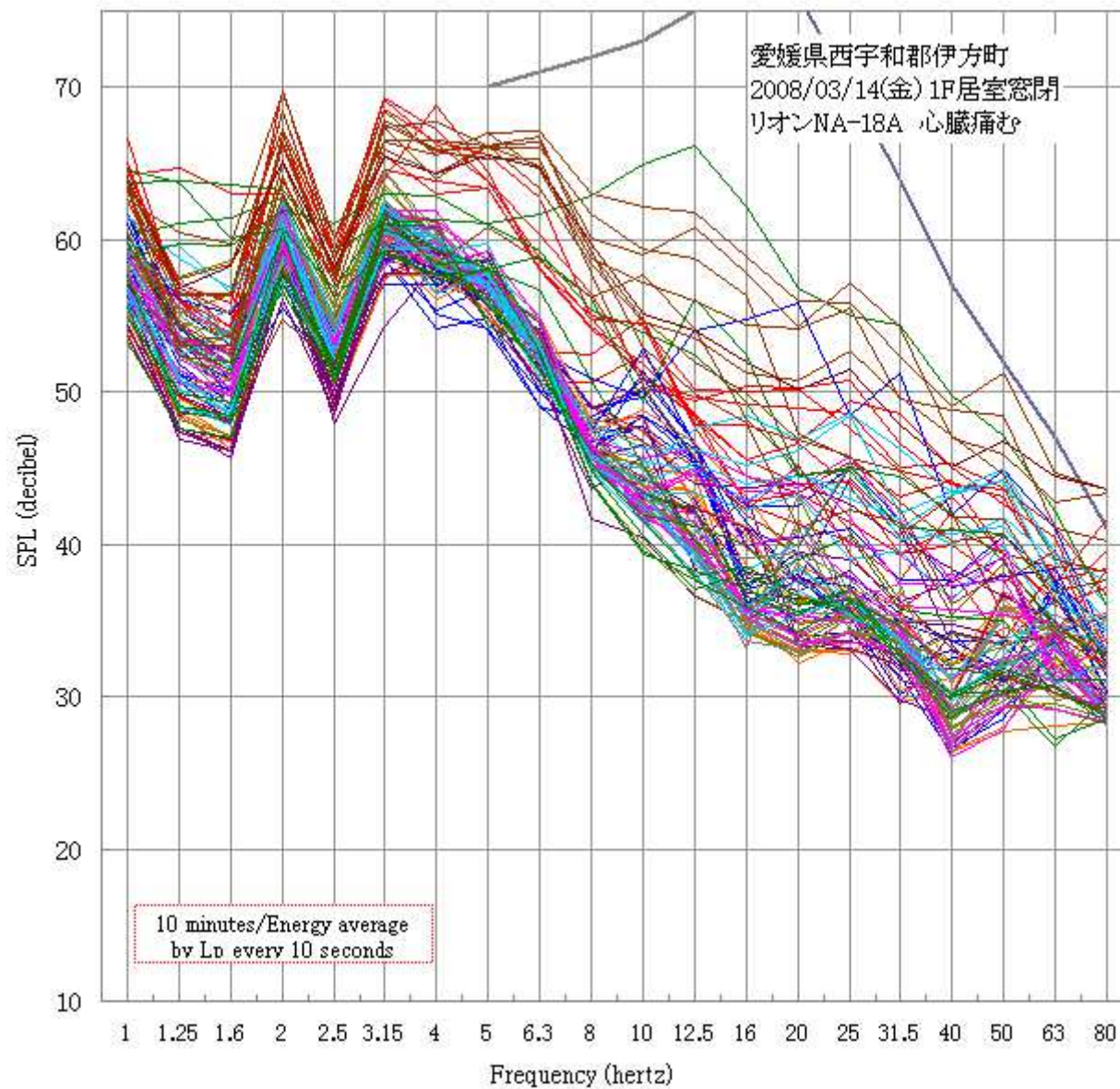
Isogram 2008/3/14 16:58:56



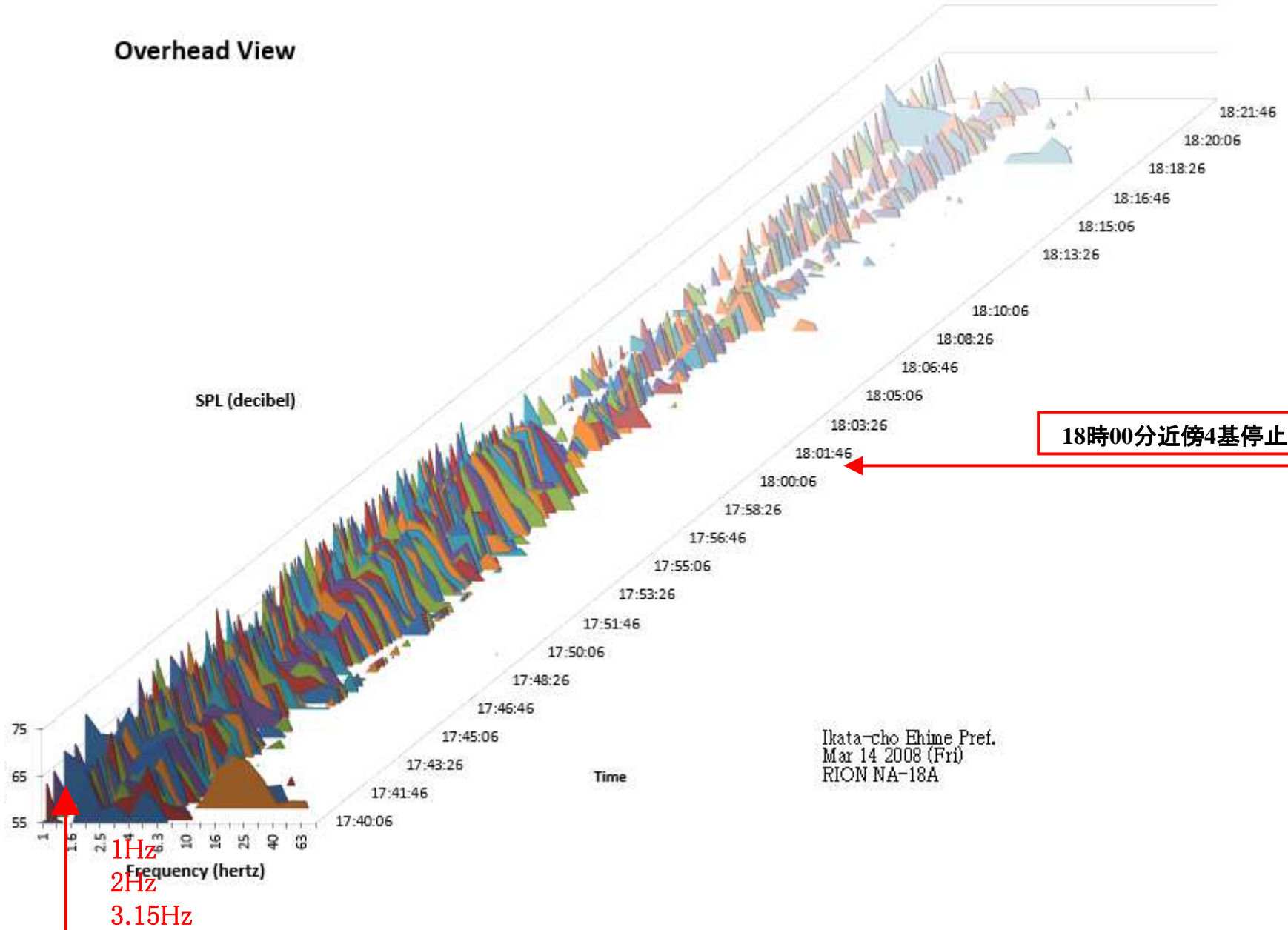
Isogram



Line chart 全時間帯 転倒し両足骨折

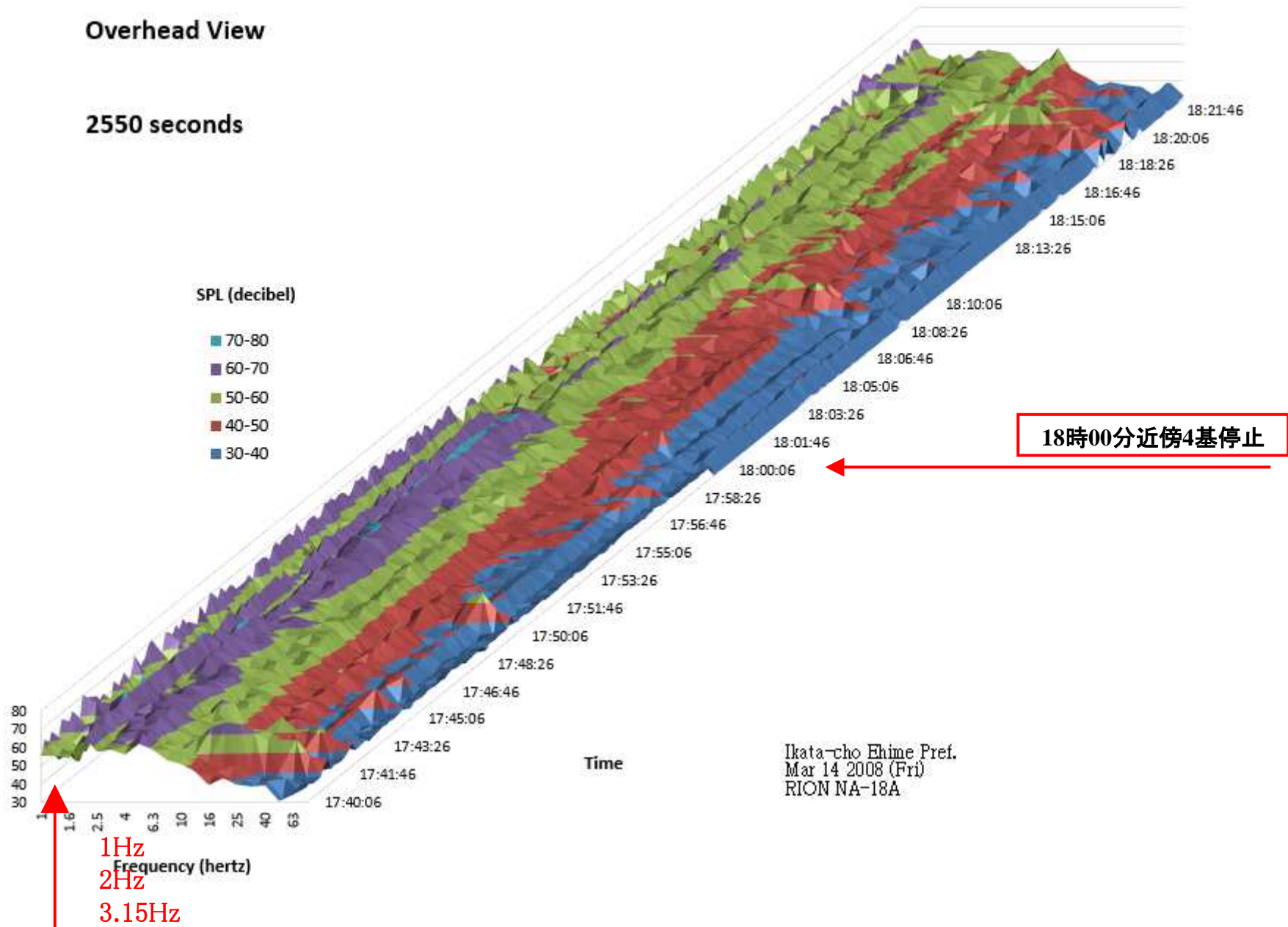


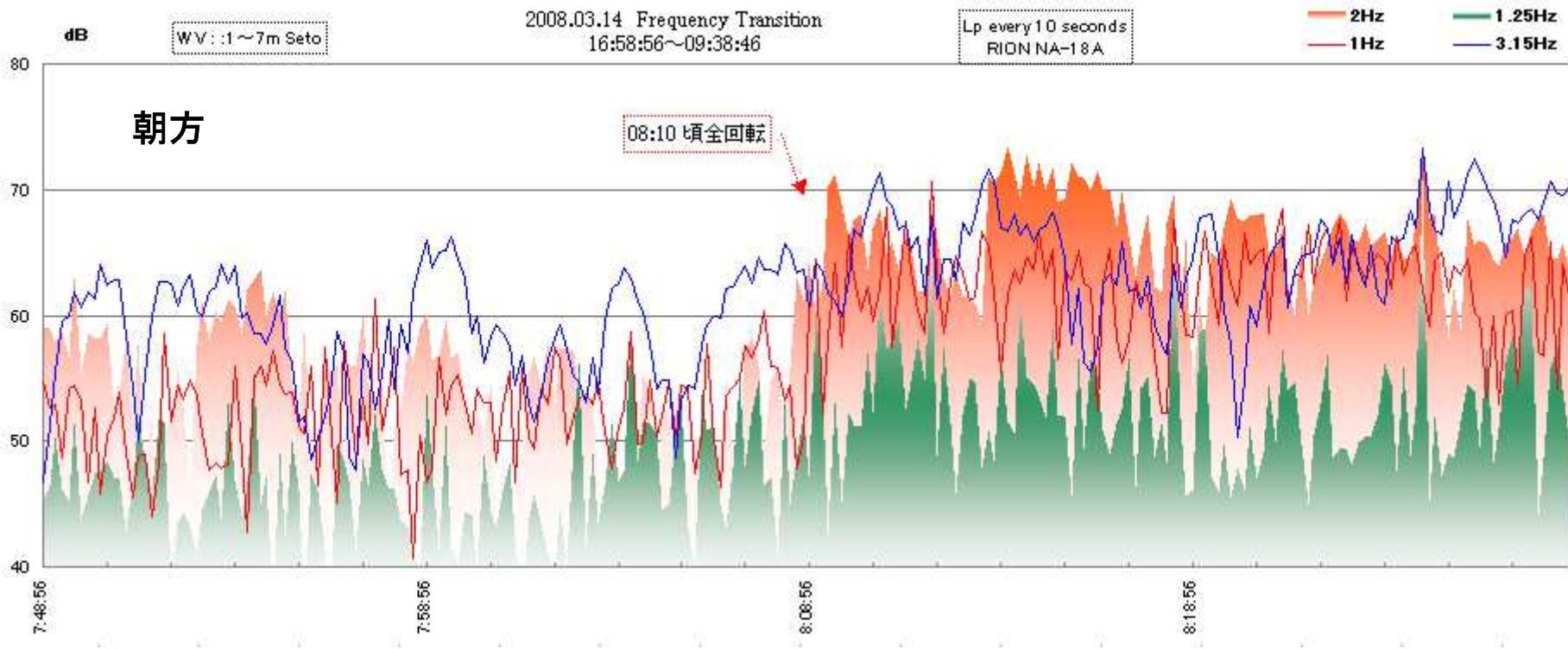
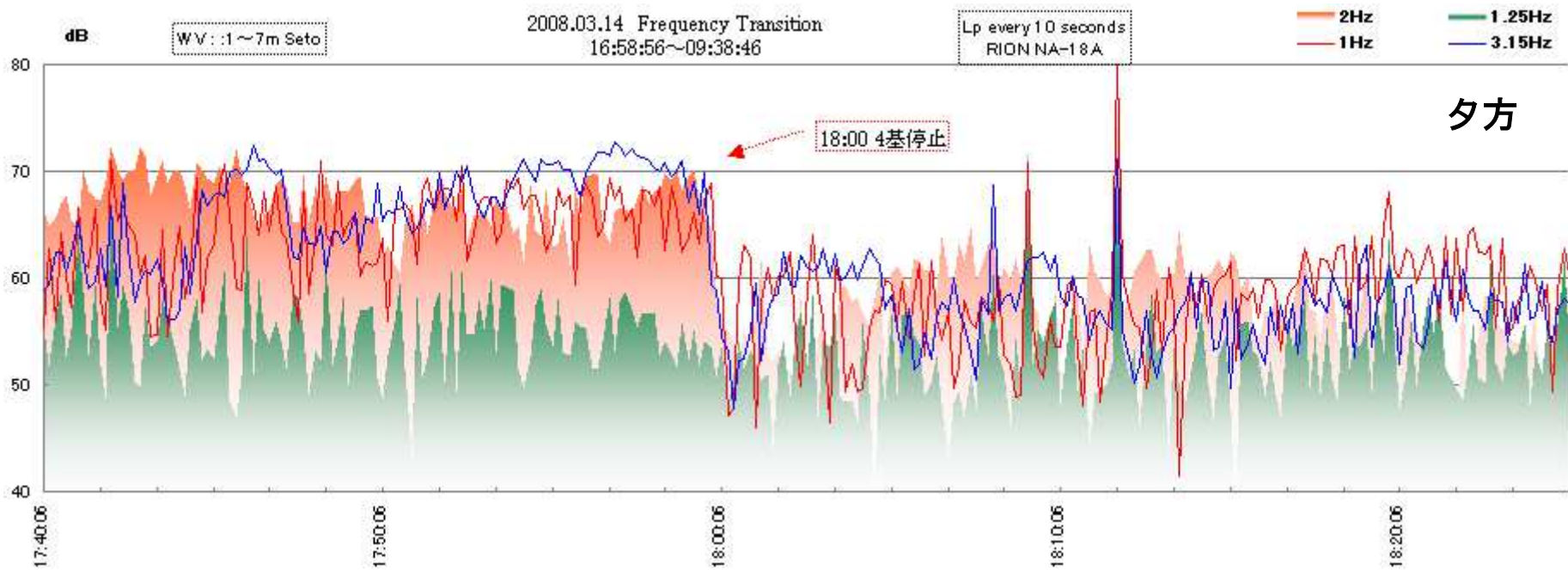
Overhead View



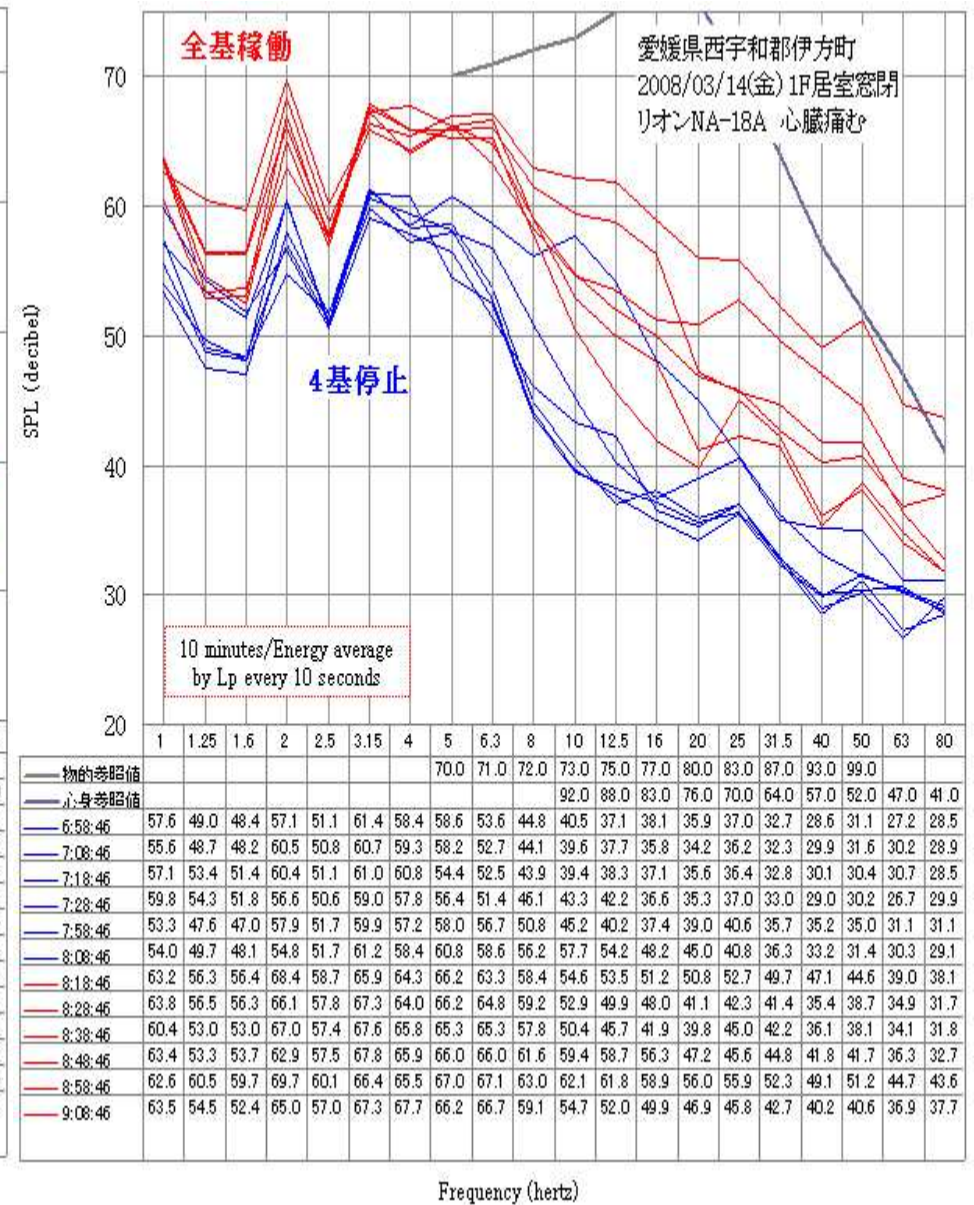
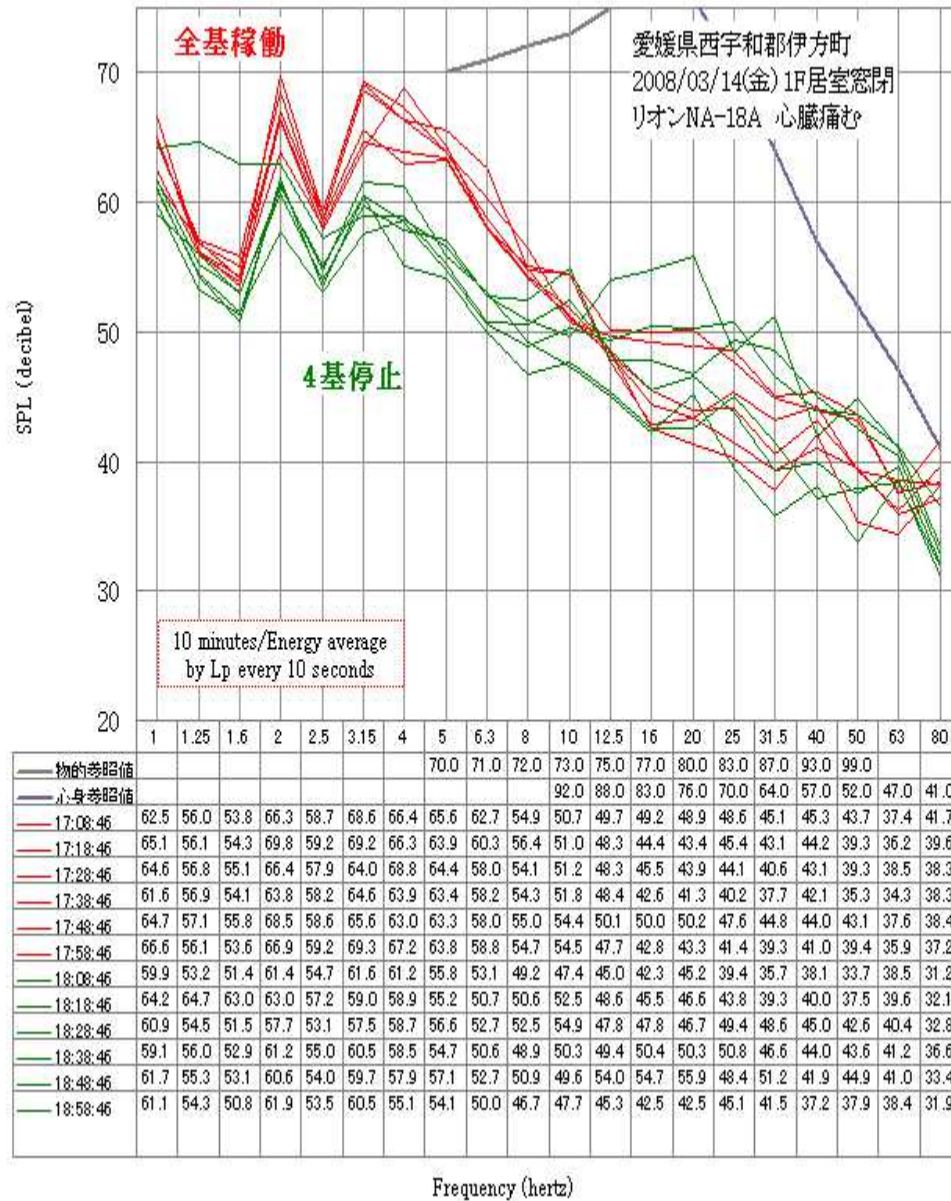
Overhead View

2550 seconds

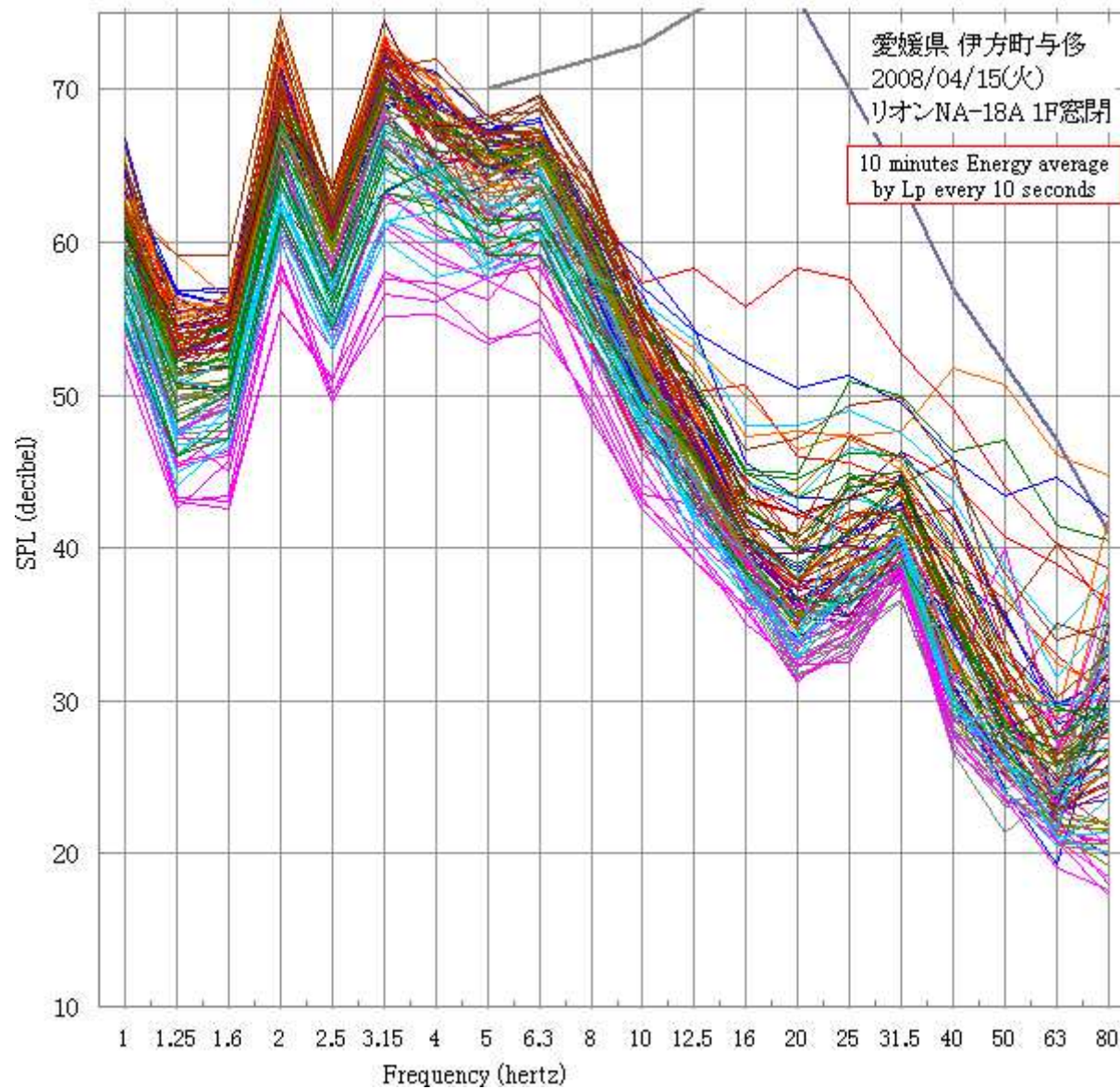




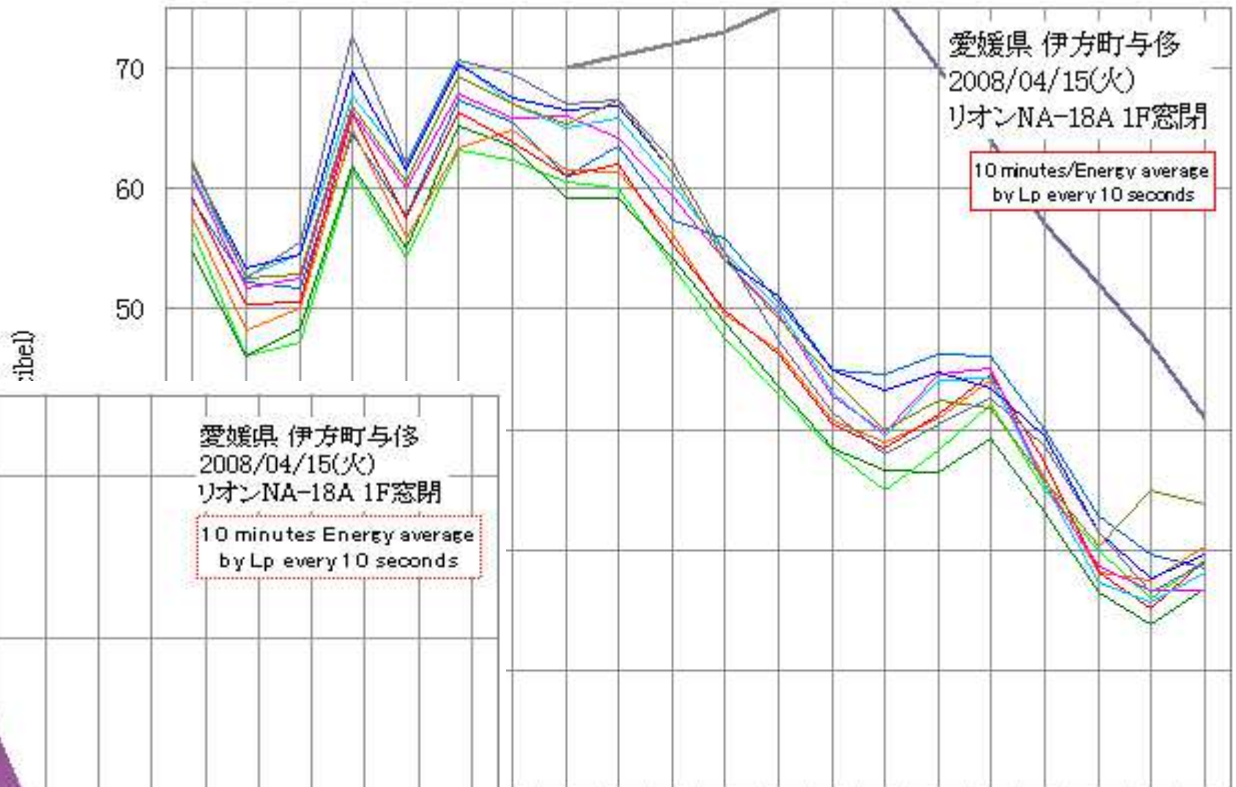
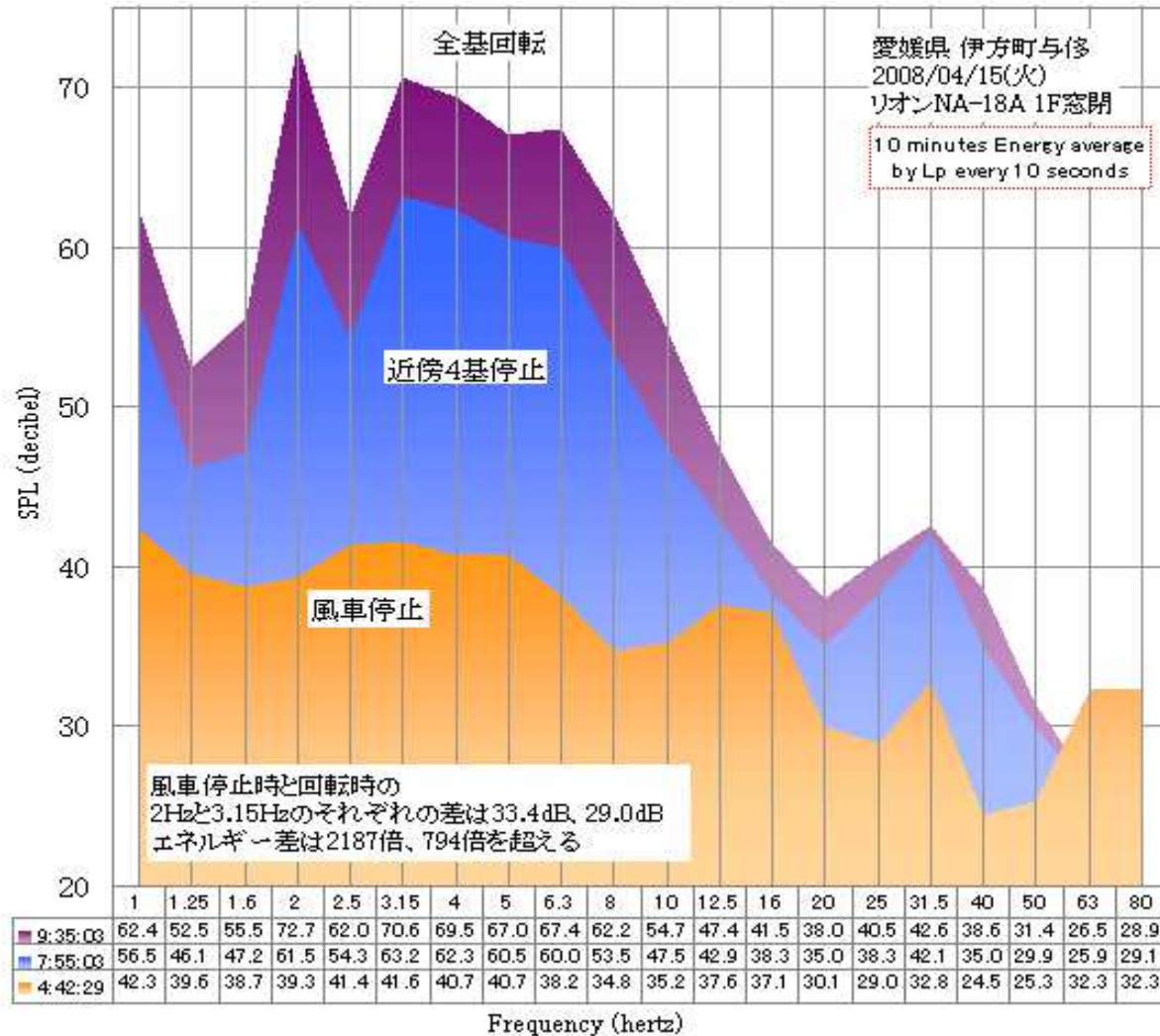
Line chart 夕方・朝方



Line chart 全時間 ご夫婦 急激に体調悪化 病院で死亡



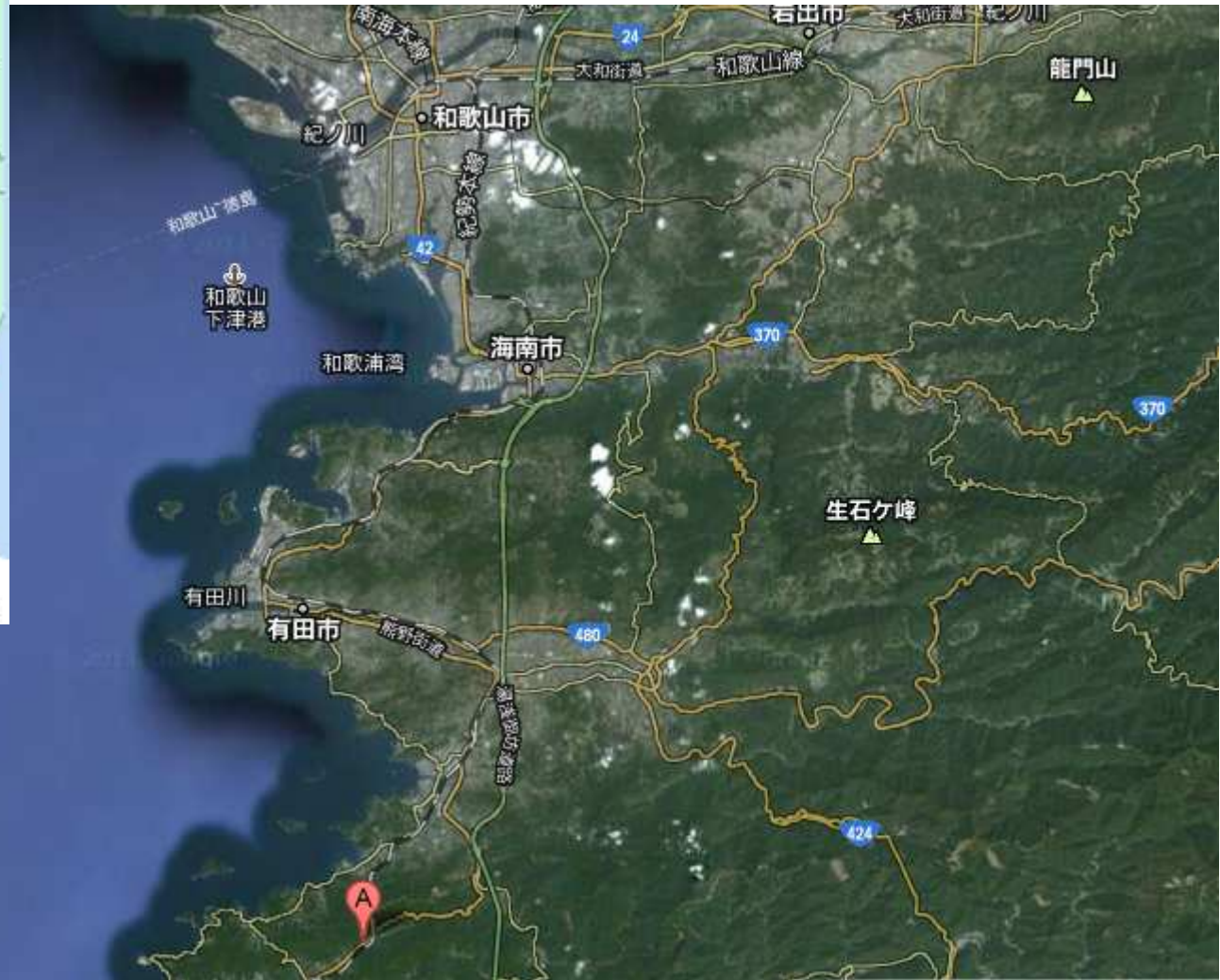
Chart

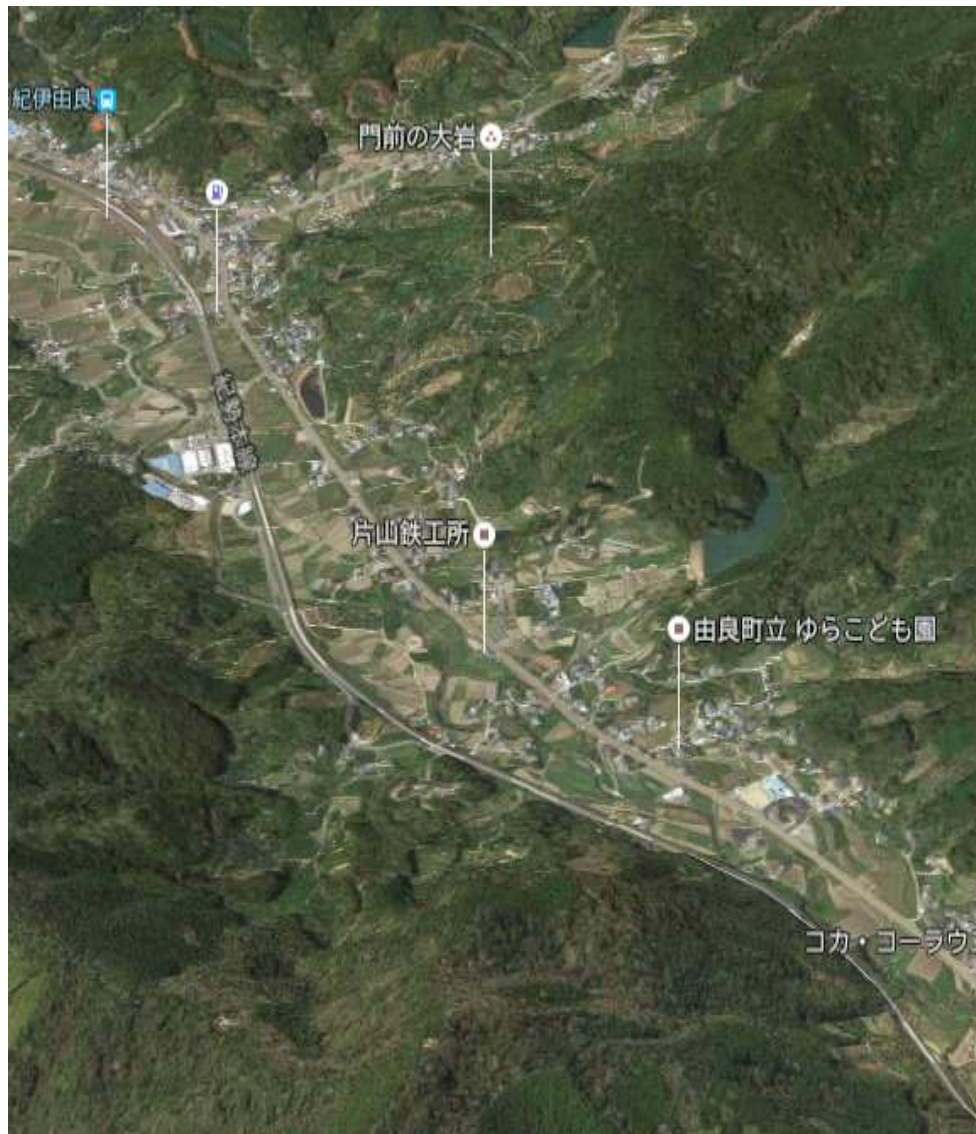


	4	5	6.3	8	10	12.5	16	20	25	31.5	40	50	63	80
		70.0	71.0	72.0	73.0	75.0	77.0	80.0	83.0	87.0	93.0	99.0		
					92.0	88.0	83.0	76.0	70.0	64.0	57.0	52.0	47.0	41.0
2.3	60.5	60.0	53.5	47.5	42.9	38.3	35.0	38.3	42.1	35.0	29.9	25.9	29.1	
3.5	59.2	59.2	54.3	48.9	43.5	38.4	36.6	36.4	39.2	33.1	26.5	23.8	26.8	
5.5	61.1	63.5	57.3	55.8	50.6	44.9	44.5	46.2	46.1	40.0	32.8	29.6	28.4	
4.8	61.5	61.4	56.2	49.5	46.5	40.7	38.9	41.0	44.1	36.0	28.2	27.5	30.2	
3.9	61.1	62.1	55.4	49.9	46.2	40.5	38.4	41.2	44.5	37.2	28.1	25.1	29.1	
5.9	66.0	64.2	59.4	54.0	49.5	42.7	39.8	44.6	45.0	35.4	28.6	26.6	26.7	
7.0	65.0	65.9	60.3	54.8	50.0	43.1	39.5	44.0	44.2	35.4	27.3	25.7	28.2	
7.5	66.5	66.9	61.4	54.1	51.1	44.9	43.3	44.8	43.4	39.5	31.5	27.6	29.6	
7.1	65.4	67.4	61.4	54.1	49.3	44.2	40.0	42.5	41.8	35.7	30.2	35.0	33.8	
9.5	67.0	67.4	62.2	54.7	47.4	41.5	38.0	40.5	42.6	38.6	31.4	26.5	28.9	

Frequency (hertz)

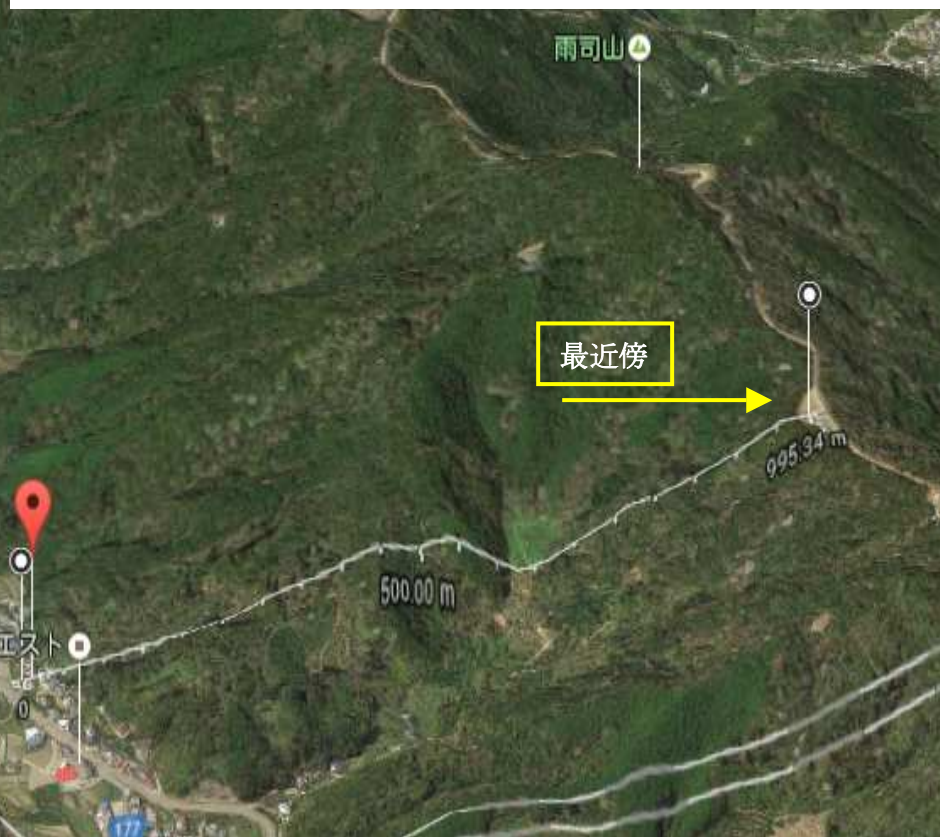
和歌山県日高郡由良町





大阪ガス株式会社の100%子会社である株式会社ガスアンドパワーと双日株式会社が共同出資し、2005年10月設立。現在は株式会社ガスアンドパワーが100%出資者。

和歌山県有田郡広川町ならびに日高郡由良町の町界において発電容量16,000kW(1,000kWの風力発電設備16基)の風力発電事業を行っている。



和歌山県日高郡由良町畑

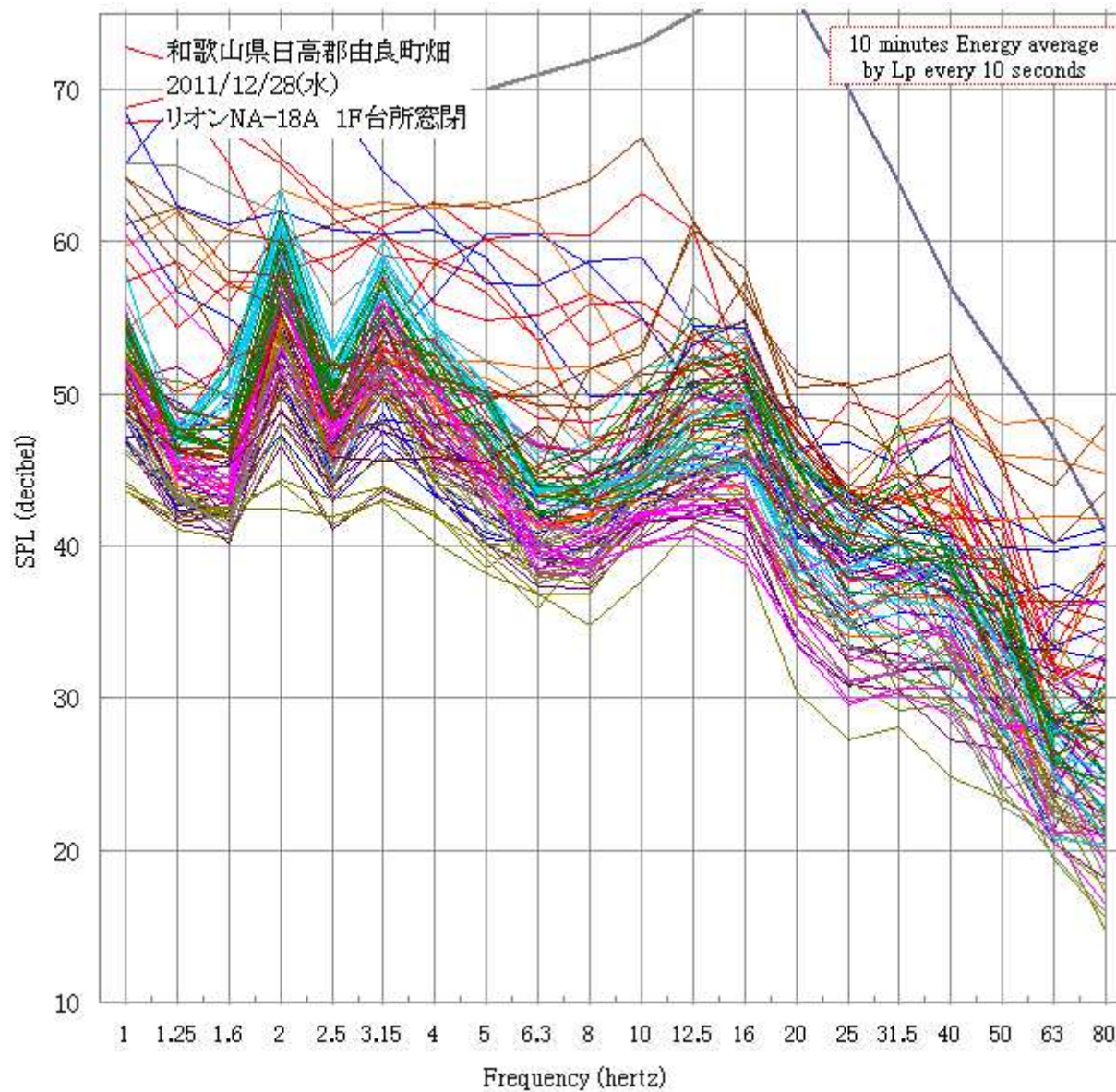
広川明神山風力発電所

16,000kW(1,000kW×16基)三菱重工業株式会社製MWT-1000A

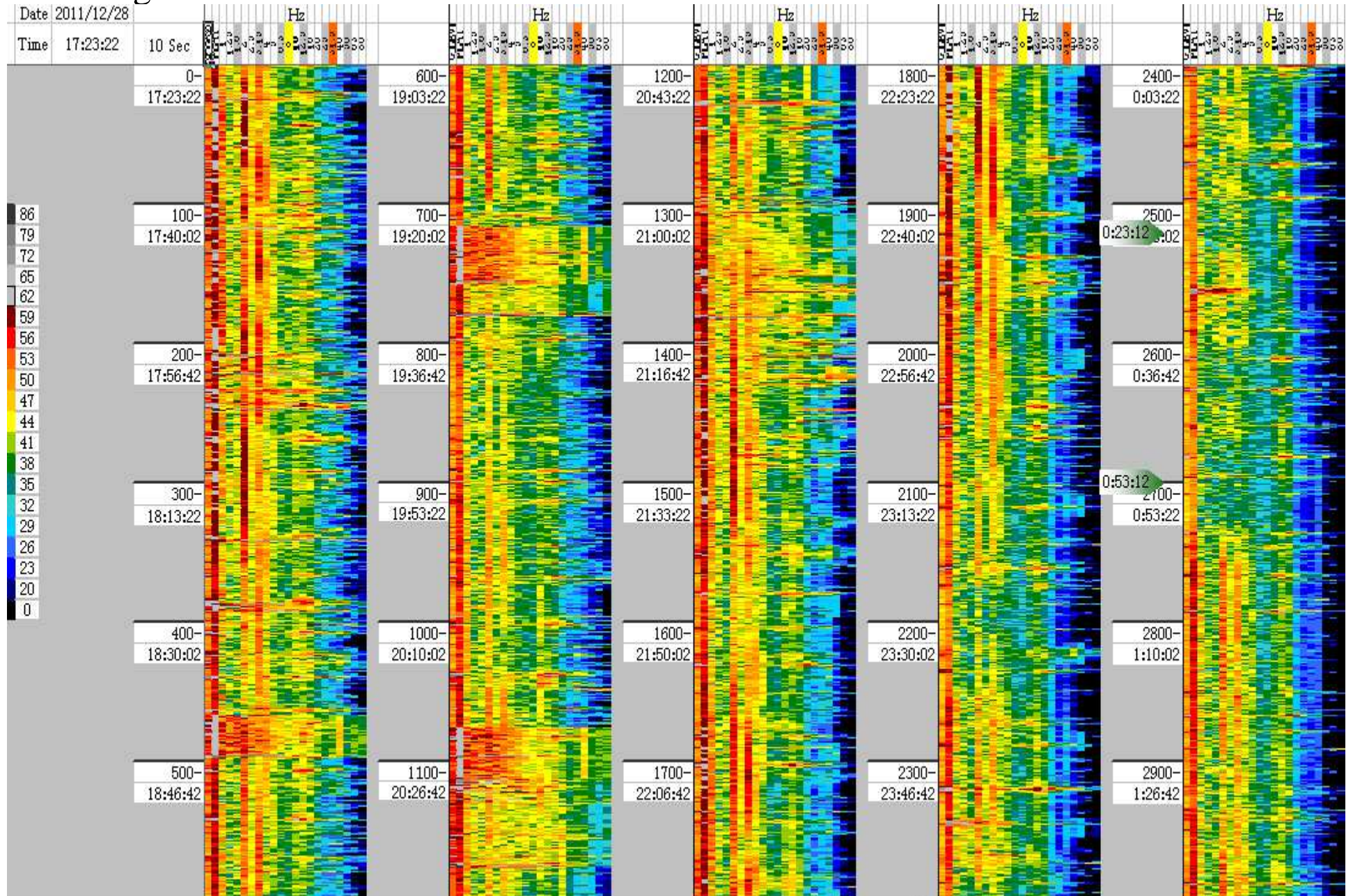
ブレード直径:61.4m ハブ高さ:68.0m ブレードの最高点:98.7m



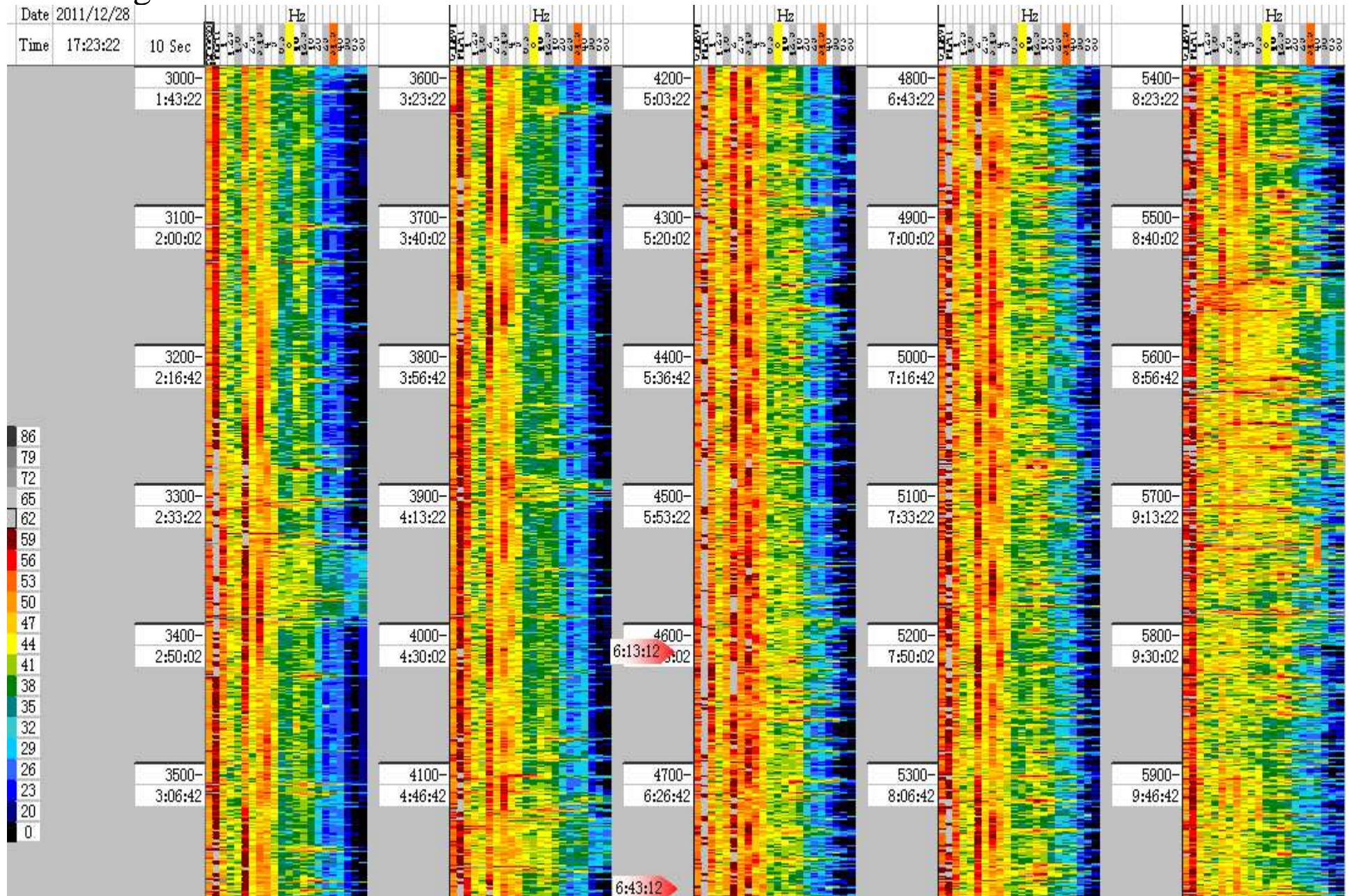
Line Chart 全時間帯 2016年11月 循環器不全で突然死



Isogram 2011/12/28 17:23:22

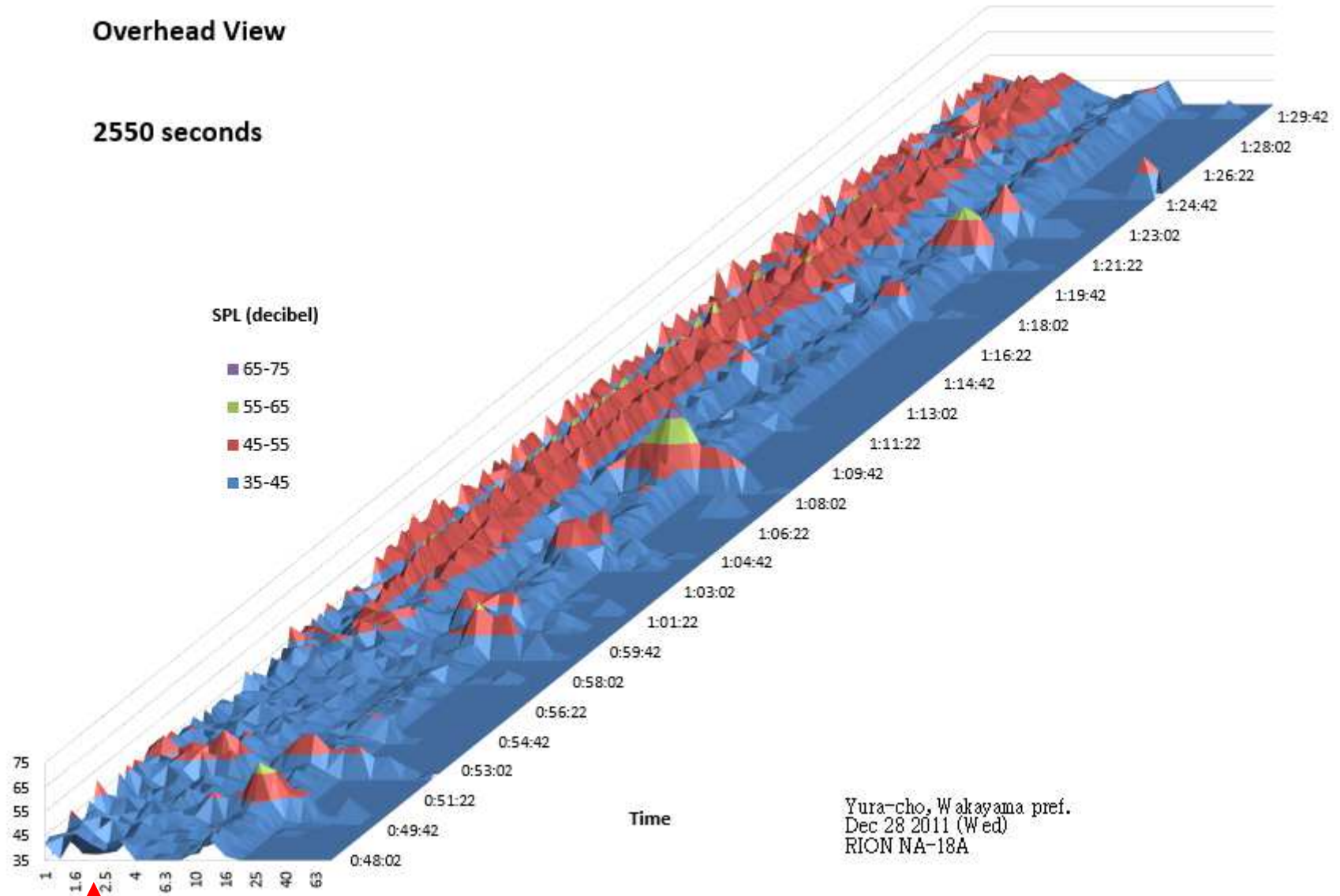


Isogram 2011/12/28 17:23:22



Overhead View

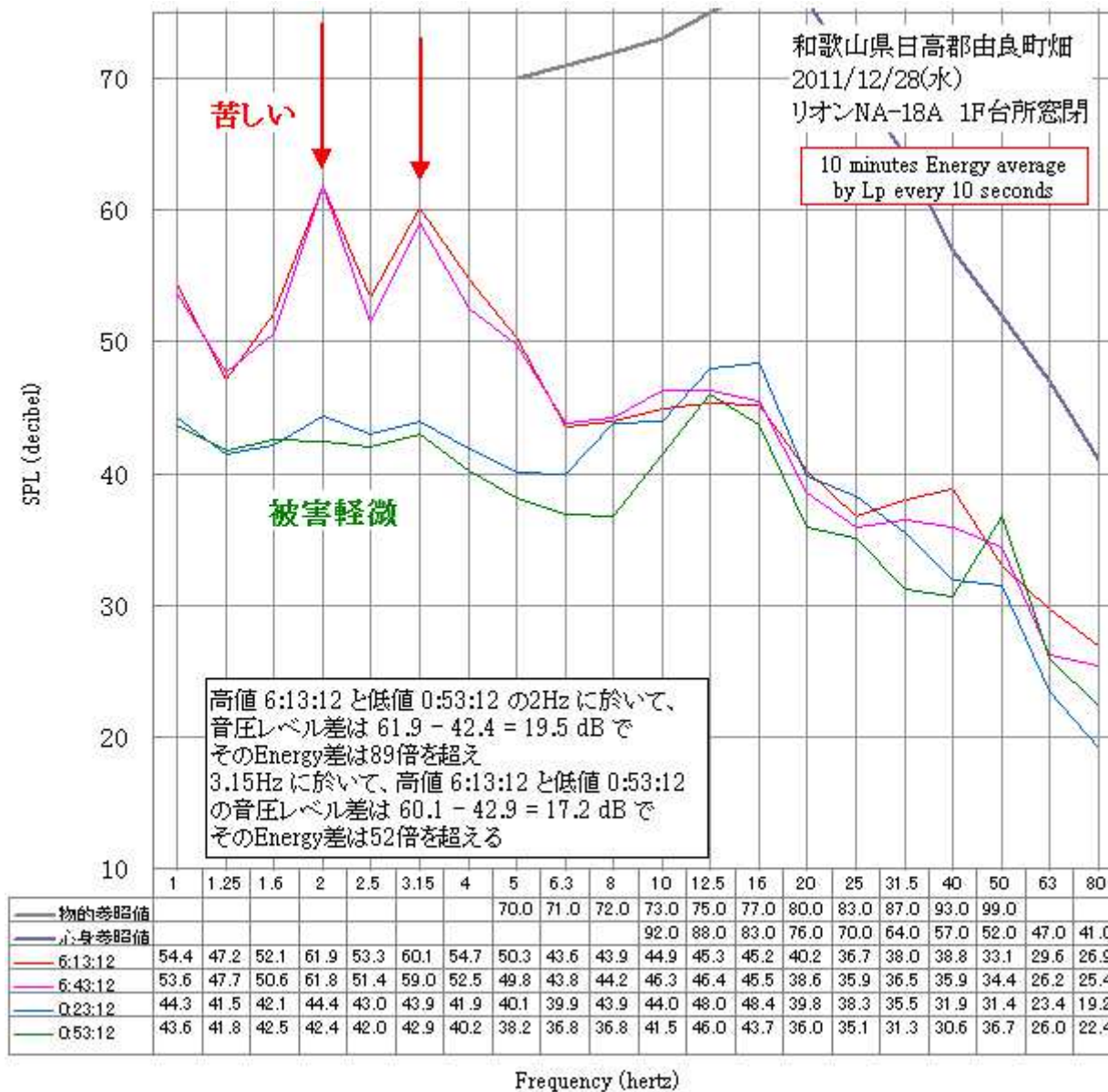
2550 seconds



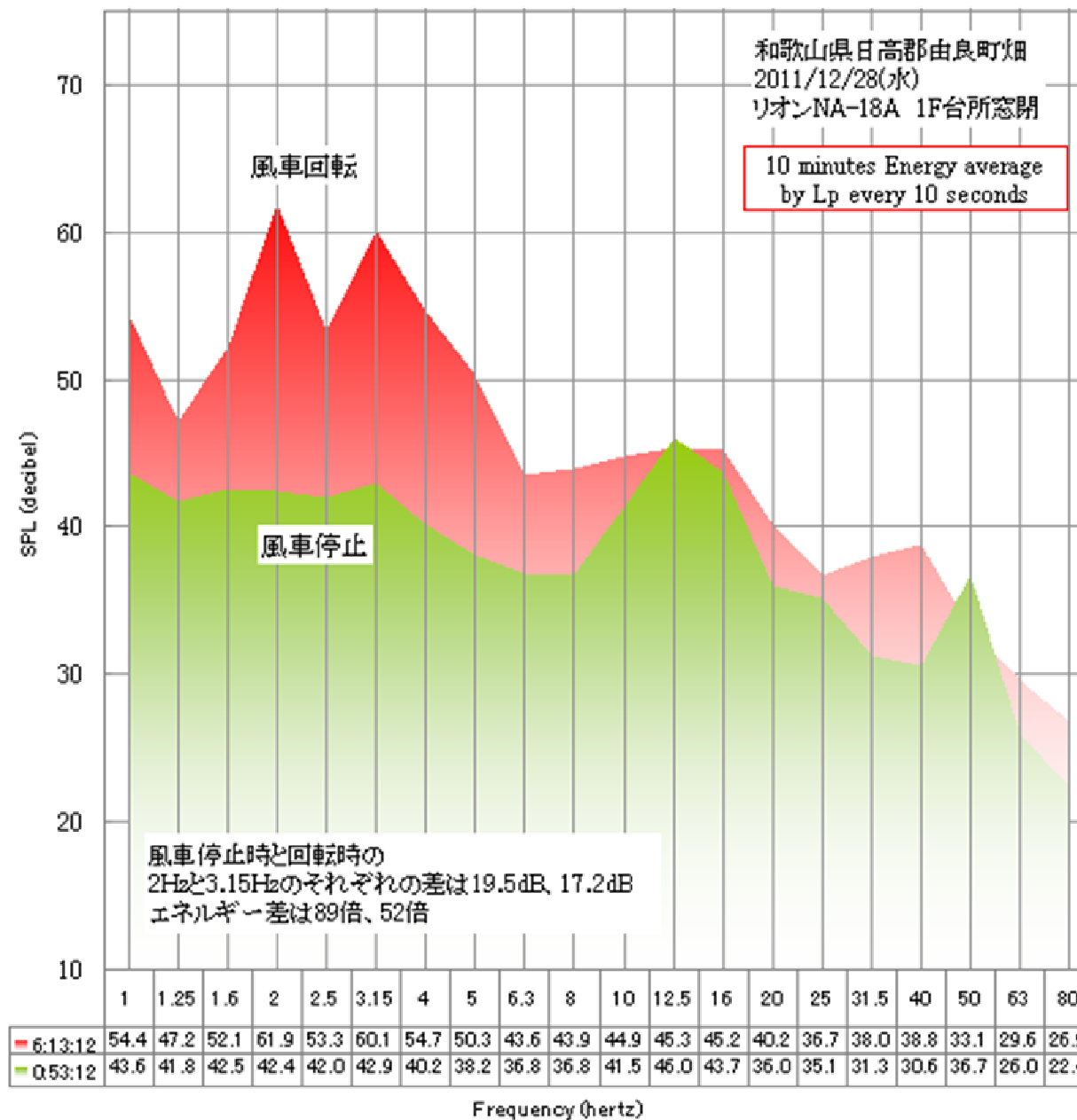
Frequency (hertz)
1Hz 2Hz
3.15Hz

Yura-cho, Wakayama pref.
Dec 28 2011 (Wed)
RION NA-18A

Line Chart



Area Chart



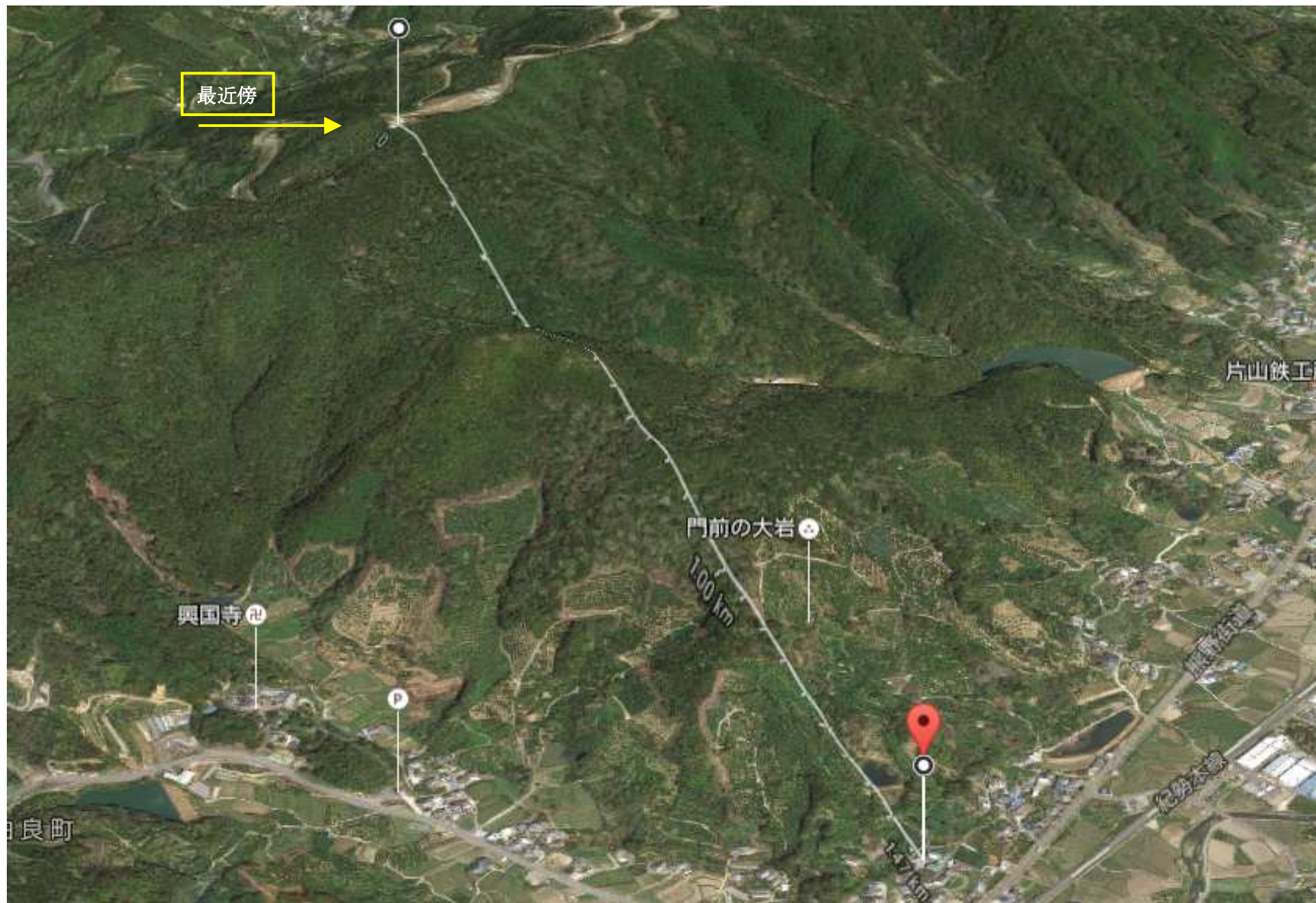
和歌山県日高郡由良町門前



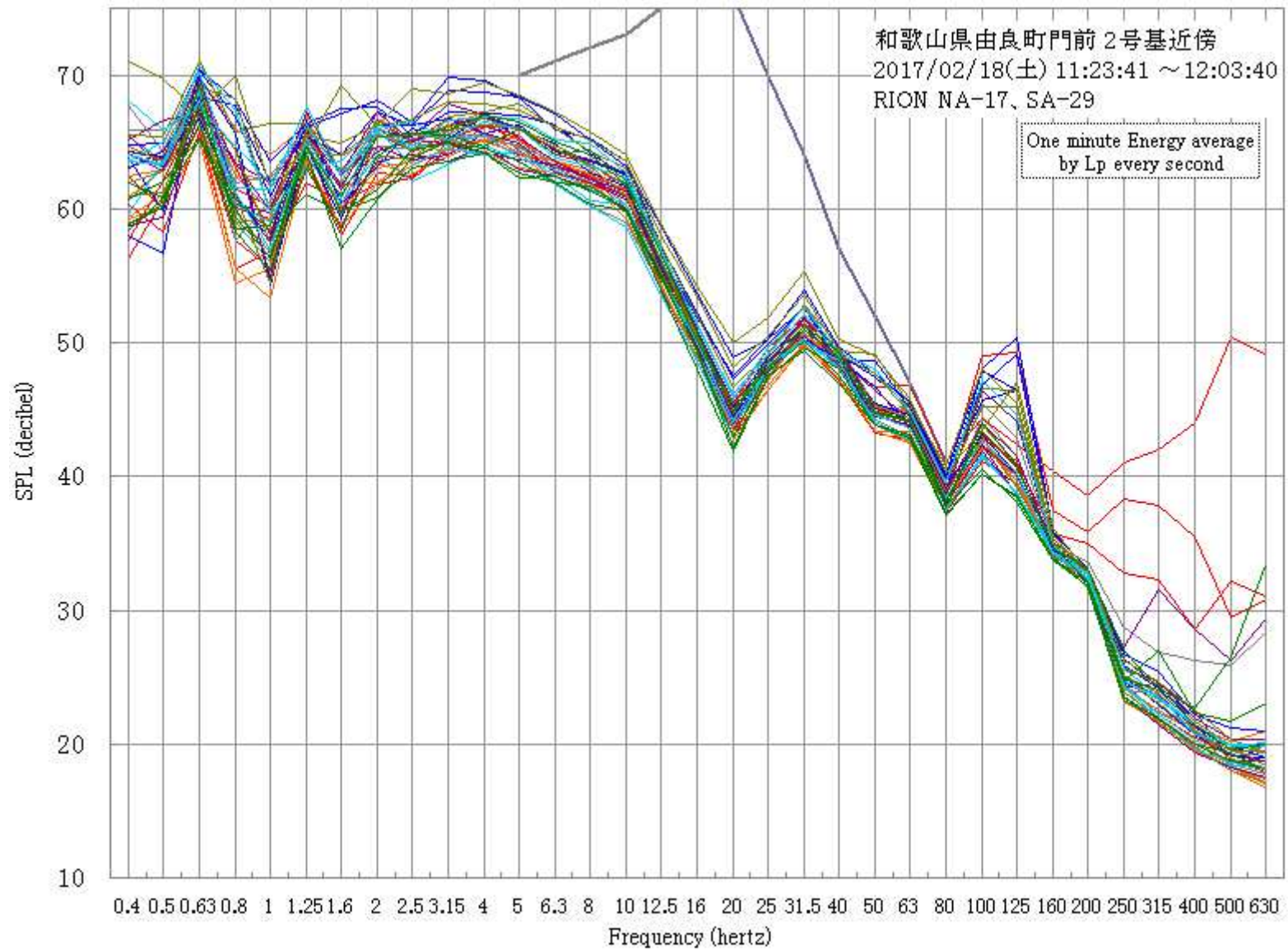
由良風力発電所:和歌山県日高郡由良町三尾川

標高約400mの雨司山西側 発電容量9,950kW(1,990kW×5基)

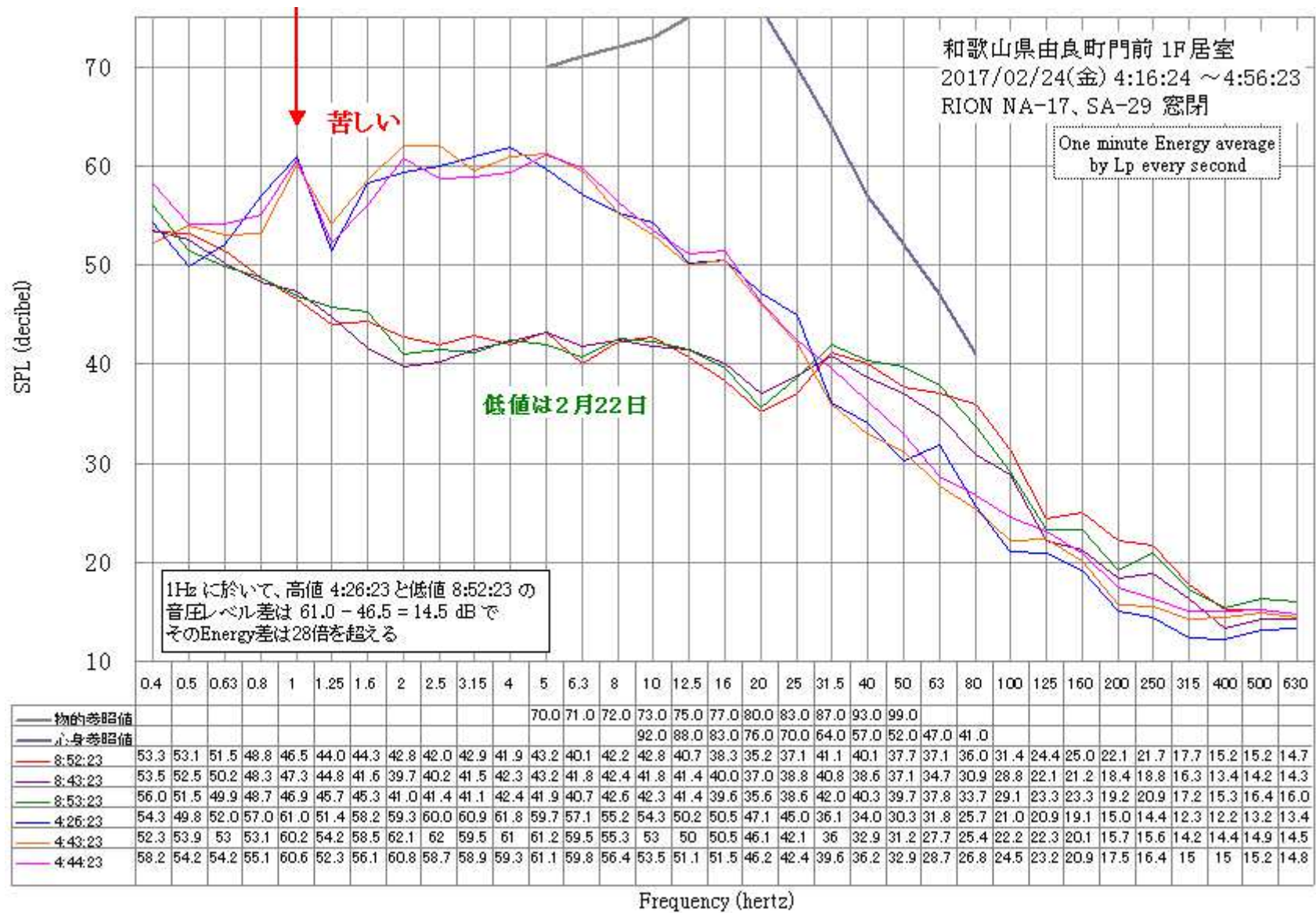
運転開始時期:2011年9月(2011年6月譲渡)



Line chart 音源



Line chart 受音側



公害等調整委員会の音当て強制

職権調査関係者は、低周波音曝露に依って体感調査開始後まもなく体調を崩し、苦痛を訴えて「音当て」を断念したいと懇願した申請人（郡山）を放置して、本来なら救急対応すべきところを更に「音当て」を強行し、申請人の症状の悪化を招いているにも拘わらず、庶民には解読できる筈のない大部の調査報告書を送り付けてなお、申請人には何の説明もしていない。申請人は音源減弱操作疑念と共に以下の実態報告をしている。

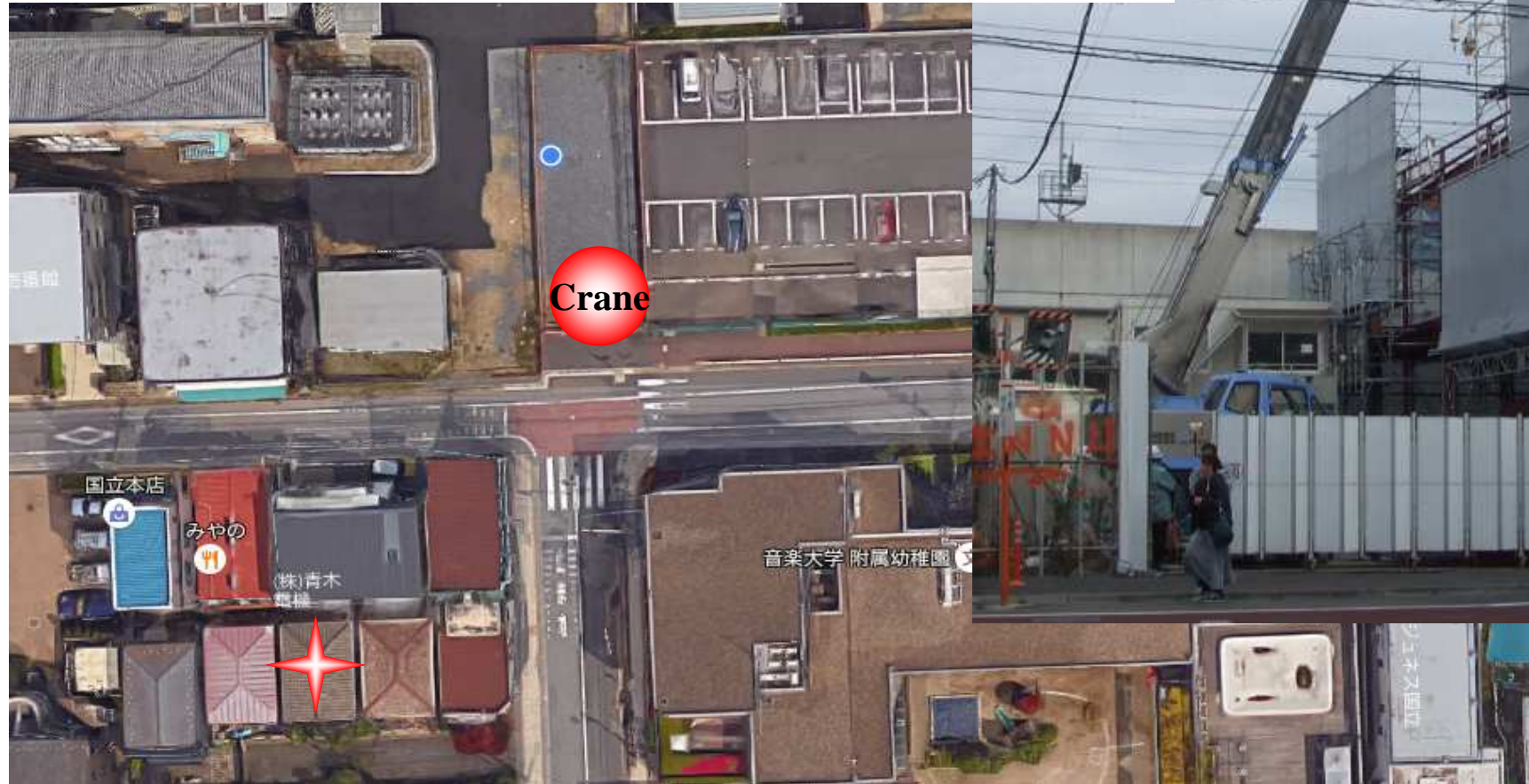
申請人の申し立て

低周波音の体感を記録するときは、本当に地獄だった。普段から低周波音を聞こえないようにしていたのを、評価の為に意識して聞かなくならなかったからだ。測定時、周りに音があり、そこから低周波音を区別してその音の強さを評価するというのは大変な苦痛だった。始まってから10分頃には気分が悪くなり、頭が特にコメカミ辺りが痛くなって、30分過ぎには朦朧としていた。途中から1分毎の評価などとてもできなくなり、時間が適当になった。あまりにも辛いので「これ以上はできない、公調委に原因裁定を依頼したのは、商業施設の室外機からの低周波音が被害者宅まで届いているかを調べてもらうことなのだから、こんな拷問は不要じゃないかと」訴えたが、低周波問題が解決されるならと思いつつ直し続けたが、苦しくて時計を見る余裕もなく、評価は適当になった。

調査することが音源側にバレていたら

加害者は、音源を駆動させなかったり、変更したり、必ず減弱操作する。

JR東日本、鹿島、三洋電機、首都高、東京都、国立市、中野区、公害等調査委員会でも卑怯な音源操作が繰り返し行われ、因果関係は証明されないまま、被害者の人権は認められることなく蹂躪され、家庭用給湯器や大型風力発電機へと被害が拡大した。



低周波音被害死は医師法違反の結果

医師法は、第十七条で「医師でなければ、医業をなしてはならない。」と定めている。その主たる目的は、医師でない者が「重大な疾患を見逃す、など誤診を回避することである。

しかし国家は依然として、騒音・振動被害と低周波音被害を区別せず、理工学関係者が「ヒトの死に至る健康被害、について容喙し、専門家然として国家意思の反映に励むことも公認している。

いったん被害者になってしまうと、治癒することはなく、音源駆動時に「痛い・苦しい、という、因果関係が明々白々な暴行事案を、疫学を利用することでも、対策を遷延してきた。

音源を停止するだけで被害は解消するにも拘わらず、被害者を救う基準も法律も相談窓口すら作らず、FITや税金を投入して音源を作り、被害を拡大させてきた。

責任は、医師法違反を是認し、国家及び国家意志の実現に勤しむ理工学関係者や大学教員、日本消費者連盟や日本弁護士連合会等にある。

低周波音被害は加害者の虚言が生み出したのである。この問題に就いて虚言する者が加害者である。

直ちに音源を停止すべきである。

第7回 低周波空気振動被害事例研究会

低周波音源近傍の突然死

SOS

2017.07.09

多摩平交流センター

日野市・国立市後援

特定非営利活動法人

低周波空気振動被害者の会

